



2. 「歩いて楽しいまちなか戦略」の 目標と進め方

2. 「歩いて楽しいまちなか戦略」の目標と進め方

「歩いて楽しいまちなか戦略」において目指す「歴史的都心地区の将来像」

京都の魅力と活力が凝縮した「歴史的都心地区」が、50年後も100年後も、すべての人々を魅了するまちであるよう、「歩行者と公共交通優先」で、「環境にやさしい」、「歩いて楽しいまち」を創出する。

その際、新景観政策による建築物等のデザインと一体的に考え、誰もが「行ってみたい」「歩いてみたい」「写真を撮りたい」「住んでみたい」と思える、洗練された品格ある都市空間のデザインを実現し、世界に誇れるまちづくりを目指す。

「歩いて楽しいまち」とは

子供からお年寄りまですべての人が「安心安全で快適」に暮らせるまち
市民も国内外の観光客も、京都を愛するすべての人が「ゆったりと」
買い物や散策を楽しめるまち

「歩いて楽しいまちなか戦略」において目指す「歴史的都心地区の将来像」

□ 四条通

コンセプト

京都市内最大の商業集積を誇り、歴史的都心地区の「ゲートウェイ」として、1日58,000人が来訪する四条通について、自動車の混雑と買い物客やバス待ちの人々がひしめき合うクルマが主役の現状から、心なごむ歩道、さわやかな車道などヒト中心の空間へと改編する。

わが国を代表する、誰もが素晴らしいと思うデザインを持った、歩行者が主役の空間とすることで、歴史的都心地区にふさわしい魅力と品格を高める。

「歩いて楽しいまちなか戦略」において目指す「歴史的都心地区の将来像」

□ 四条通

【具体的方法】

歩道（現状では片側3.5mずつ）を2倍程度に拡幅し，すべての歩行者がゆったりと通り，買い物を楽しめる空間を確保する。

一般車両の通行を抑制してトランジットモール化することによって，公共交通の定時性や快適性を高め，来街者にとってより便利で楽しい空間とする。

四条通と交差する歴史的細街路（東洞院通～寺町通間の8本）から四条通への流入・横断をできないこととし，地区内を通過するのみの自動車交通に遠慮してもらうことで，四条通や歴史的細街路の歩行環境の安全性・快適性を向上させる。

「歩いて楽しいまちなか戦略」において目指す「歴史的都心地区の将来像」

□ 歴史的細街路 三条通(東洞院通～麩屋町通間)

コンセプト

木造の伝統的建造物や明治期以降の洋風建造物が独特の町並みを形成し、趣の異なる賑わい空間を創出し、錦小路通と並んで多くの歩行者数を数える三条通について、歩行者の安全性・快適性を向上させることで、新たな賑わい空間の核とする。

同時に、錦小路通や新京極通、寺町通をはじめとした、既に歩行者専用化されている商店街等とのルート化により歴史的都心地区全体の回遊性を高め、賑わいの連続性を持たせる。

【具体的方法】

日曜・祝日等人出の多い曜日、時間帯に、歩行者の安全性・快適性を向上させる道路とする。

その他の時間帯において、自動車の通過を抑制する。

「歩いて楽しいまちなか戦略」において目指す「歴史的都心地区の将来像」

□ 歴史的細街路 その他細街路

コンセプト

住民，事業者，駐車場利用者など，市民生活や業務・物流活動に必要な自動車交通のアクセスを妨げずに，地区内に用のない通過交通のみを徹底して抑制し，歩行者優先の交通環境を実現する。

【具体的方法】

錦小路通の高倉通～新京極通間は，現在，歩行者専用化されており，細街路の中で歩行者数が最も多い。東洞院通～高倉通間についても，歩行者が多いことから，歩行者の安全性・快適性を向上させる道路とする。

東洞院通（蛸薬師通～錦小路通間）については，通過交通の抑制と地区外への流出経路を確保する。

「歩いて楽しいまちなか戦略」において目指す「歴史的都心地区の将来像」

□ 河原町通

コンセプト

四条通のトランジットモール化と三条通の歩行者空間の確保策について、先行して実現を図ることとし、今後、市内を縦断する幹線道路としての機能を考慮しつつ、歴史的都心地区全体での更なる魅力向上を図るために、**河原町通の特性を生かした将来像について、まとめる。**

「歩いて楽しいまちなか戦略」の進め方

「歩いて楽しいまちなか戦略」は、「歩いて楽しいまち」実現に向けたまちづくりを「交通環境の改善」と「賑わい創出」により目指すものである。

まずは、平成19年度の社会実験により、「歩いて楽しいまちなか」の素晴らしさをイメージし、体感してもらうことで、効果と課題を検証し、将来像を確定させ、実現に向けた発展へ繋げていく。



社会実験の目的

社会実験は、市民の皆様が素晴らしいと考えるまちの姿を仮想的に体感するための手段である。

そのため、社会実験は皆が次のステップに希望を持てるよう、将来像を共有できるイメージパースの駆使や、風格あるまちなかにふさわしい実験用具の工夫などにより、「理想形に出来る限り近い形」で取り組む。

「歩いて楽しいまちなか戦略」の進め方

□スケジュール

平成19年度 10月 社会実験の実施

- 成功体験を共有することで，次年度以降の取組発展・拡大に向けた第一ステップとする。
- 四条通のデザインについてイメージパースを作成し，市民意見を募る。

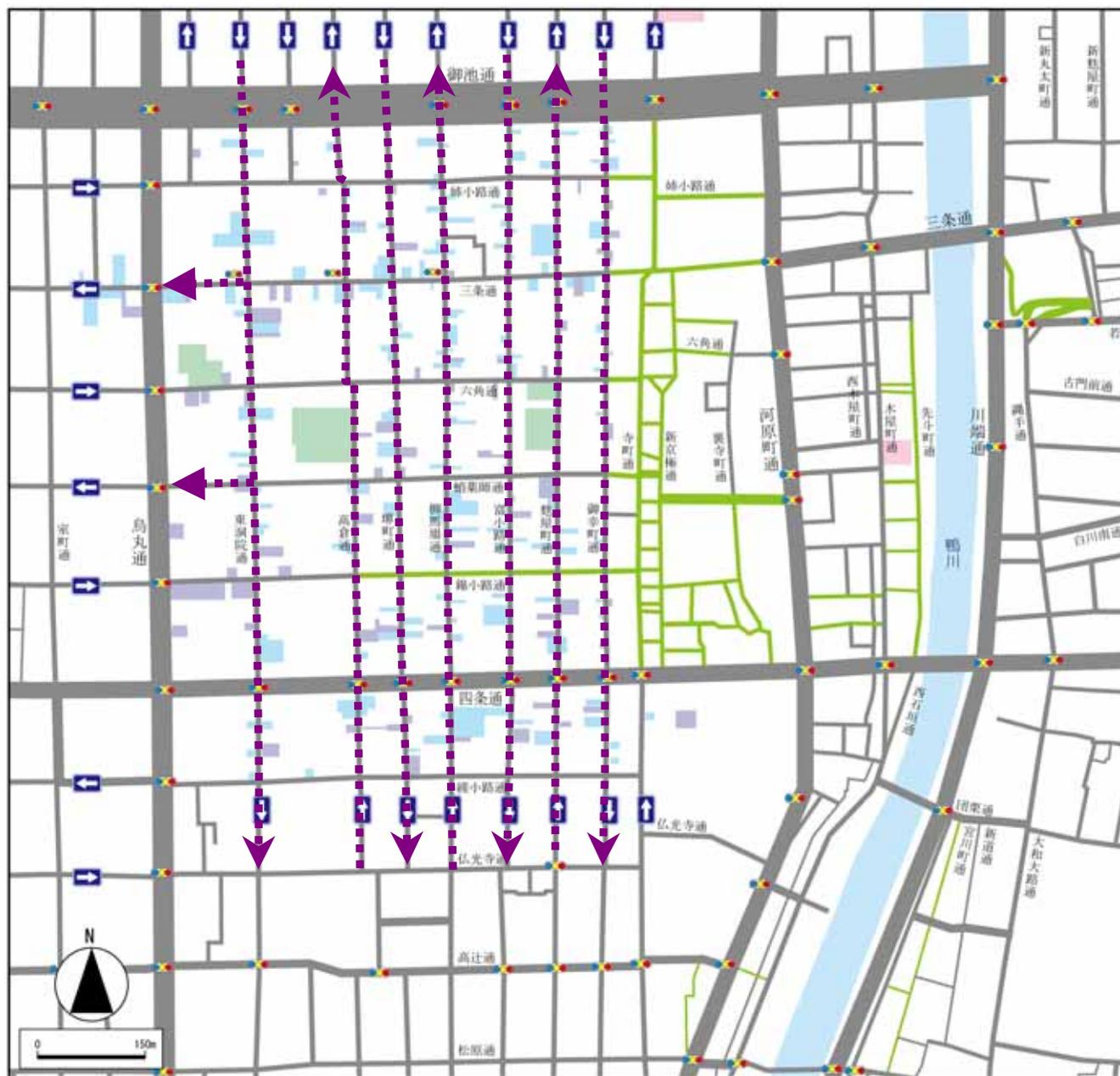
平成20年度

- 19年度の社会実験結果をもとに発展した社会実験を検討するとともに四条通の詳細設計に入る。

平成21年度

- 四条通の歩道拡幅（ハード整備）をはじめとする都市及び道路空間の再編を実現する。

現在の
まちの姿



将来まちづくり のイメージ

3年以内の実現
を目指す

→ : 地区への流入経路
← : 地区からの流出経路

凡 例	
	歩道拡幅
	トランジットモール
	一般自動車交通制限区間
	自動車交通制限区間
	歩車共存道路
	歩行者専用区間
	新設駐輪場
	既設駐輪場
	駐車場 (一時)
	駐車場 (月極)
	文教施設

河原町通については、歴史的都心地区の更なる魅力向上を図るために、通りの特性を活かしたイメージをまとめる

